

1 2023年度の取組結果及び評価と2024年度の主な取組

2023年度の取組結果及び評価	2024年度の主な取組（重点事項）
<p>基本方針1 県内の中核機関としての役割・機能の発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神科救急医療システムに重点的に取り組み、当番病院、後方支援基幹病院（優先病院及び補完病院）として役割を担っている。（4～1月受け入れ患者数71人(当番20人、優先43人、補完8人）(1-1) 児童相談所との連携会を実施するとともに、県警察本部、愛知県、名古屋市の精神保健担当部門を交えての連絡会議を実施するなど行政機関との連携を強化し、児童の一時保護や、措置入院患者等の対応をスムーズに行うことができた。（1-3） 能登半島地震に際してDPAT隊として4隊出動し、被災者支援を行った。これらの活動は、NHKを始めとしたテレビ、新聞に取り上げられた。（1-7） 	<ul style="list-style-type: none"> 当番病院が対応できない場合の優先病院として、また、優先病院も対応できない場合の補完病院として精神科救急医療システム全体を支えていく。（1-1） 引続き、児童相談所や警察と定期的な連絡会議を実施し、具体的な連携内容を協議することにより児童の一時保護や、措置入院患者等の対応を充実していく。（1-3） 愛知県とのDPAT共同訓練や講演活動を実施するとともに、マスコミを通じての広報活動を続ける。（1-7）
<p>基本方針2 高度で良質な医療の提供とエビデンスの発出</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童青年期について、愛知県、名古屋市の児童相談所との連携会を開催するとともに院内の医師を専門医の下で該当患者の診察をさせるなどの育成を進め、医療提供体制の充実に取り組んだ。（2-1） 先進的な医療であるmECT・クロザピン治療について、他の医療機関からの依頼を円滑に受け入れるため、東2病棟の保護室をmECT治療用として活用するとともに、西2、西3病棟でのクロザピン治療を計画的にすすめた。（2-3） 	<ul style="list-style-type: none"> 児童相談所との連携を強化するため、定期的な連携会を実施するとともに、院内で育成した医師に「子どものこころ専門医」の資格を取得させる。（2-1） 引続き他院からのmECT、クロザピン治療の受け入れを進めていく。（2-3） また、先進的な医療の実施が困難な医療機関の患者を受け入れるために、精神科単科病院へのアンケートの効果的な実施方法を検討する。（2-3）
<p>基本方針3 県内の医療や研究の中心となる人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 名古屋大学のみでなく他大学からの専攻医受け入れについて重点的に取り組み、令和6年度から他大学からの専攻医を1名受け入れることとなった。（3-1） 認定看護師等の資格取得にかかる費用等を負担するとともに、資格取得にかかる期間の業務分担の配慮を行うことにより、1名の看護師が精神科認定看護師を取得した。（3-2） 	<ul style="list-style-type: none"> 実績のある大学からの専攻医の受け入れを継続、推進するとともに、他大学とも新たな関係性を築いていく。（3-1） 引き続き、認定看護師等の資格取得にかかる費用等を負担するとともに、資格取得にかかる期間の業務分担の配慮を行う。（3-2）
<p>基本方針4 取組の見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関等を対象とした見える化に重点的に取り組み、令和4年度末から地域のクリニックへのアンケートを実施し、その結果をもとに見学会を開催するなど、連携を図るための関係強化を進めることができた。また、総合病院へのアンケートを実施するなど、次年度につなげる取り組みも進めている。（4-4） 「歴史（過去）・現在・未来の展望」のホームページ、動画を作成するとともに、公開講座や文化祭などの動画をユーチューブチャンネルで配信した。また、X（旧Twitter）を開設し定期的な投稿を行った。（投稿回数249回、フォロワー数120人）（2/7現在）（4-1、4-2） 近隣クリニック医師1名を雇用して、外来の初診を担当してもらうことにより、クリニックとの連携を強化することができた。（4-5） 	<ul style="list-style-type: none"> 総合病院へのアンケートをもとに、当院に対するニーズを把握し、連携強化を図る。（4-4） また、先進的な医療の実施が困難な医療機関の患者を受け入れるために、精神科単科病院へのアンケートの効果的な実施方法を検討する。（4-4） 引続き、ホームページやユーチューブチャンネル、X（旧Twitter）などを活用して情報発信する。（4-1） クリニックへのアンケートからオープンホスピタルに興味のある医師の発掘に務める。（4-5）
<p>基本方針5 持続可能な安定した経営基盤の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> mECTやクロザピン治療など、先進的な医療を実施している当院の診療実績を積極的に周知することに重点的に取り組み、クリニックへのアンケートの実施や、説明会、見学会を実施したことにより、紹介患者等の新規入院患者を確保することができた。（5-1） 毎朝のベッドコントロール会議で、病棟間や地域医療連携室との連携強化を図り、保護室等を有効的に使用することができ、救急患者の受け入れがスムーズに行えるようになった。（5-3） 	<ul style="list-style-type: none"> 他院からの患者を積極的に受け入れるため、精神科単科病院へのアンケートを実施するとともに、総合病院へのアンケート結果をもとに、当院に対するニーズを把握し、連携強化を図る。（5-1・5-2） 引続き、ベッドコントロール会議等により、保護室の有効活用と病棟内の連携による病床のスムーズな運用に務める。（5-3）

2 収益的収支見込（精神センター）

（単位：億円）

	2022 決算	2023			2024 計画	
		計画	決算見込	決算見込-計画		
収益	入院収益	16.2	19.9	17.7	△ 2.2	20.0
	外来収益	5.0	6.1	4.7	△ 1.4	6.6
	一般会計負担金	9.1	9.3	9.3	0.0	9.8
	その他収益	12.0	3.1	6.9	3.8	3.0
	収益 計	42.3	38.4	38.6	0.2	39.4
費用	給与費	23.5	25.5	24.4	△ 1.1	26.3
	材料費	3.0	3.5	2.8	△ 0.7	3.6
	その他費用	12.8	13.5	12.6	△ 0.9	13.2
	費用 計	39.3	42.5	39.8	△ 2.7	43.1
経常損益	3.0	△ 4.1	△ 1.2	2.9	△ 3.7	
経常収支比率	107.6%	90.4%	97.0%	6.6%	91.4%	

<患者数、診療単価の状況>

	2022 決算	2023			2024 計画	
		計画	決算見込	決算見込-計画		
入院	1日平均患者数	156.4人	207.0人	175.5人	△ 31.5人	208.0人
	1人1日平均診療単価	28,307円	26,229円	27,555円	1,326円	26,268円
外来	1日平均患者数	199.8人	258.0人	196.2人	△ 61.8人	282.0人
	1人1日平均診療単価	10,250円	9,790円	9,895円	105円	9,677円

<分析結果>

○収益の増減理由

入院収益	患者数	<ul style="list-style-type: none"> ・9月まで東2病棟（50床）を新型コロナウイルス感染症確保病棟としていたが、対象患者数が少なかった。 ・医師不足により、入院患者を獲得できなかったことによる。
	診療単価	<ul style="list-style-type: none"> ・単価の低い、一般病棟（東2，東3，西4病棟）の患者数が、計画と比べて少なかったため、平均診療単価が増加した。
外来収益	患者数	<ul style="list-style-type: none"> ・デイケアにおいて、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した患者が戻ってこなかった。医師不足により、新患外来枠を増やすことができなかったことによる。
	診療単価	<ul style="list-style-type: none"> ・持続性注射薬（LAI）件数の増による。
その他収益		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策事業補助金を獲得したことによる。

○費用の増減理由

給与費	<ul style="list-style-type: none"> ・医師4人欠員、レジデント4人欠員による減
材料費	<ul style="list-style-type: none"> ・患者数が計画に達していないこと、院外処方の促進による薬品購入数量の減
その他費用	<ul style="list-style-type: none"> ・原油価格の下落による光熱水費の減、患者数が計画に達していないことによる委託費等の減

<2024年度の収支改善の取組>

<ul style="list-style-type: none"> ・医師が充足していなかったため、入院患者を獲得できなかったことから、名古屋大学のみでなく他大学から専攻医を受け入れるなどして、医師を確保する。 ・他の医療機関や児童相談所との連携を進めることで、mECT やクロザピン治療を必要とする患者や一時保護を必要とする児童青年期の患者を受け入れるなどにより、入院患者、外来患者を確保する。
